



# ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 383  
February  
2025

## トピックス

### ADRC客員研究員レポート

リタ・メーガン・レドゥア・ウアニセバ (フィジー)

イ・ヨンギユ (韓国)

### 関係機関との協力推進

JICA課題別研修：2024年度  
気候変動下のアフリカ地域  
における総合防災コース

### お知らせ

出版物「2011年東日本大震災の緊急対応への国際協力による宇宙からの支援の記録」

ADRC出版物「自然災害データブック2023」

## Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通  
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540  
Fax: 078-262-5546  
editor@adrc.asia  
https://www.adrc.asia

© ADRC 2025

### ●ADRC客員研究員レポート

#### リタ・メーガン・レドゥア・ウアニセバ (フィジー)

私の名前はリタ・メーガン・レドゥア・ウアニセバです。フィジーの地方・海洋開発・災害管理省国家災害管理局 (NDRMO) で、GISを担当する主任行政官として働いています。私はスバのヴァトゥワカ小学校で教育を受け始め、その後はセント・ジョセフ・セカンダリースクールで学びました。また、南太平洋大学では、地理空間情報に関する学士と、太平洋諸島と海洋管理の大学院の課程を修了しました。

キャリアの初期におきましては、南太平洋大学のGISとリモートセンシングの学士課程コースで講師を勤めました。その後、地理空間アナリストとして国土鉱物資源省に入省し、地理空間データベースの更新と分析、測量計画の立案、フィジーの地籍を調査する業務などを担当しました。また、フィジー国内の土地利用に関する情報を更新することで、国有地の台帳の更新にも貢献しました。さらに、国有土地利用マスタープランに関する地図の作成、フィールドワークの実施、関係者へのインタビューなどの業務を担当しました。現在は、NDRMOの上級行政官 (GIS担当) として、災害リスク軽減、土地利用計画、環境モニタリングのさまざまな国家プロジェクトに貢献しています。

ここに示した多くの経験は、私の能力向上のための意欲や情熱を促してくれました。今回、ADRCの客員研究員プログラムに参加する機会を与えてくれたことに、心から感謝しています。ADRCのスタッフの皆さまから学ぶことは貴重な経験であり、私の現職である災害リスク軽減の地理空間アナリストに大きく貢献すると期待されます。



#### イ・ヨンギユ (韓国)

皆さまこんにちは。私は韓国出身のイ・ヨンギユです。最近、韓国は大統領の弾劾によって大きな政治的混乱に直面しています。また、少し前には悲惨な飛行機事故が発生し、179人の命が奪われました。このような困難な状況の中、私はADRCの客員研究員プログラムに参加するために来日しました。このような機会を与えていただいたことに感謝する一方で、重い気持ちを抱かざるを得ません。私は現在、韓国火災予防協会 (KFPA) に勤務していますが、韓国政府の支援により、今回のプログラムに参加することができました。

1995年1月17日、日本では阪神・淡路大震災が発生しました。当時、私は卒業を控えた高校3年生でした。日本は韓国の隣国であるため、震災の悲惨な光景は今でも忘れられない記憶となっています。今年は震災から30年目にあたります。2025年1月17日、私はADRCの客員研究員プログラムに

**続き**

参加する他の客員研究員たちやADRCスタッフとともに30周年記念式典に出席しました。その厳粛な雰囲気、私に深い印象を残しました。

実は、神戸を訪れたのは今回が初めてで、神戸の街はとてもきれいだと感じます。震災から30年経った今、神戸の街を見ていると、「Build Back Better」というスローガンの象徴的な例であると目の当たりにしたような気がします。

今回のプログラムにおきまして、アジアをリードする日本の防災技術や文化から学び、その知識を韓国に持ち帰って多くの人と共有したいと思います。この客員研究員プログラムは、間違いなく私にとって忘れられない経験となるでしょう。韓国を代表して、ADRCの皆様から感謝申し上げます。

\*\*\*\*\*

ADRCはメンバー国の政府職員等が来日して学ぶ客員研究員プログラムを1999年から実施しています。2025年2月時点で28か国から合計138名の受け入れ実績があり、客員研究員を通じてメンバー国の人材育成と防災情報の収集に努めています。

2025年1月、今年度の客員研究員6名が来日し、日本での研修に参加しています。



2024年度客員研究員プログラムの様子

## ●関係機関との協力推進

### JICA課題別研修：2024年度 気候変動下のアフリカ地域における総合防災コース

ADRCは、2024年11月25日から2025年2月4日にかけて、JICA課題別研修「気候変動下のアフリカ地域における総合防災」コースをJICA関西との協力により実施しました。研修は、遠隔と来日によるハイブリッド形式で行われ、カーボベルデ、ケニア、マダガスカル、モーリシャス、モザンビーク、ルワンダ、セネガル、ソマリアの8か国から8名の防災担当行政官が参加しました。

本研修は、各国における災害対策を推進するために、地方防災計画案の策定方法を習得し、帰国後のアクションプランの作成を目指すものです。研修員は、講義や現地視察、防災タウンウォッチングに基づいた住民参加型ハザードマップの作成、地方防災計画案策定演習などを通じて、各国の対象都市の災害対策を検討しました。本研修の実施にあたり、ご協力いただいた関係機関の担当者、大学の皆様に厚く御礼申し上げます。



住民参加型ハザードマップ作成

**●お知らせ****出版物「2011年東日本大震災の緊急対応への国際協力による宇宙からの支援の記録」**

災害の記録や教訓を将来の世代や今後大災害が予想される他の地域のために残すことは重要です。ADRCは、衛星リモートセンシングを災害管理に適用するためのグッドプラクティスを収集する取り組みを支援してきました。その一つである2011年の東日本大震災の記録「2011年東日本大震災の緊急対応への国際協力による宇宙からの支援の記録」は、ADRC客員研究員の加来一哉博士が執筆し、2023年11月にケンブリッジ・スカラズ・パブリッシングから出版されました。

この本は、日本に対する各国や国際社会からの寛大で友好的な支援の記録です。2011年の東日本大震災の際には、14の国と地域から27機の衛星が繰り返し宇宙から被災地を観測し、災害対応活動を支援しました。地震とそれに続く津波への対応を通じて、国際協力による宇宙からの対応が大規模災害時の救援活動を効果的に支援できることが実証されました。

本書は、2011年の東日本大震災や2006年から2014年までのセンチネル・アジア（SA）と宇宙航空研究開発機構（JAXA）の活動を検証し、災害対応支援に衛星リモートセンシングを適用するための要件を導き出しています。将来の災害に備えようとする人々にとって、この本はリマインダーとして役立つでしょう。また、本書は災害管理への衛星リモートセンシングの適用に関する教科書としても利用できます。

詳細については、以下のリンクをご覧ください。

ハードカバーとペーパーバック：

<https://www.cambridgescholars.com/product/978-1-5275-4636-3>

電子書籍：

[https://play.google.com/store/books/details/Kazuya\\_Kaku\\_A\\_Record\\_of\\_the\\_International\\_Collabor?id=PdriEAAAQBAJ](https://play.google.com/store/books/details/Kazuya_Kaku_A_Record_of_the_International_Collabor?id=PdriEAAAQBAJ)



「2011年東日本大震災の緊急対応への国際協力による宇宙からの支援の記録」（表紙）

**ADRC出版物「自然災害データブック2023」**

ADRCは、災害データの統計的・分析的視点を提供するため、毎年「自然災害データブック」（英語版のみ）を発行しています。最新の2023年度版をはじめ、これまでのデータブックは以下のサイトからご覧いただけます。

ADRC「自然災害データブック2023」：

[https://www.adrc.asia/publications/databook/DB2023\\_e.php](https://www.adrc.asia/publications/databook/DB2023_e.php)

**問い合わせ・配信申し込み**

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は [editor@adrc.asia](mailto:editor@adrc.asia) までEメールをお寄せください。